

2 地域資源活用研究の進捗状況

中村只吾・蛸原一平

1 本研究の目的と方針

本研究では、集落景観や生業の変遷に関する聞き書きや古写真、戦前絵はがきなどの記録資料を地域資源として位置づけ、収集や映像記録を図る。そのうえで、今後の地域づくりや集落再生をめぐる議論において、それらが利活用されるようなコンテンツの作成及び提示を目的としている。なお、本研究における調査活動（資料収集活動）及びブックレットやアーカイブ等のコンテンツ作成作業には本学学生やPD、RA等にも加わってもらう。そのことにより地域社会が抱える様々な課題を歴史文化的な視点から捉え、主体的に問題解決に取り組み、地域再生の牽引者となってゆく若い人材を育成してゆく効果を期待している。加えて、本研究の調査活動は先の環境史研究や地域比較研究とも部分的に連動しており、両研究やその成果を学生教育へ反映させ、かつ具体的地域実践にも結びつける役割も持つ。

本研究での活動内容は5つに大別される。すなわち、①ブックレット「〈東北一万年のフィールドワーク〉」シリーズの作成・刊行、②ブックレット「〈むらの記憶〉」シリーズの作成・刊行、③集落の景観および分布に関する空中写真の収集・撮影、④地域資源のデジタルアーカイブ化と活用、⑤その他の若手活用である。以下に、各々の目的と今年度の取り組みについて述べる。

2 今年度の取り組み

① ブックレット「〈東北一万年のフィールドワーク〉」シリーズの作成・刊行

学生主体の集落調査の成果をブックレット〈東北一万年のフィールドワーク〉シリーズにまとめてゆくものである。今年度は、八戸市南郷区島守地区、気仙沼市唐桑町鮎立地区、山形県鶴岡市大鳥地区、西置賜郡白鷹町深山・荻野地区を対象に、歴史班および民俗・人類班メンバーが指導役となり、地域比較研究と連動させながら調査・研究を進めた。このなかで、鮎立地区に関しては、その調査内容をまとめたブックレット『東北一万年のフィールドワーク12 鮎立』（仮）が今年度中に刊行予定である。なお、前年度、山形県長井市・飯豊町の散居集落を対象とした学生主体の集落調査に着手したが、今年度にテーマと計画の再検討をおこない白鷹町深山・荻野地区を調査対象地に変更することとした。

② ブックレット「〈むらの記憶〉」シリーズの作成・刊行

本テーマでは、東日本大震災に代表される自然災害や、集団移転といった社会的契機により、暮らしのあり方を大きく変化させたり、閉村となってしまったりした集落を調査対象とし、その成果をブックレット〈むらの記憶〉シリーズにまとめてゆく。調査には学生も部分的に参加している。本シリーズのブックレットとして、昨年度末（2015年3月）に『ブックレット〈むらの記憶〉2 下北半島野平』を刊行し、本年度4月に地域の方々やむつ市教育委員会など現地関係者へブックレットの配布をおこなった。

③ 集落の景観および分布に関する空中写真の収集・撮影

民俗・人類班による地域比較研究「空から見た東北」「海から見た東北」と連動した資料収集（写真撮影）をおこなう。そして、Webサイト上でのそれらの公開を通して資料の利活用のあり方を探る。本年度も、10月に田口・蛸原が撮影フライトを実施し、福島県・宮城県沿岸部（福島県福島市、郡山市、棚倉町、いわき市～南相馬市～相馬市～宮城県名取市および仙台市一帯）を対象とした、計3800点以上に及ぶ集落景

観の写真撮影をおこなった。

④ 地域資源のデジタルアーカイブ化と活用

戦前絵はがきや古写真の収集と、Webサイト「近現代の絵はがき・写真」(<http://www.tobunken-archives.jp/DigitalArchives/>)での公開を通し資料の利活用を図ることを本テーマでの活動内容としている。とりわけ資料の整理と公開のための作業に関しては、本学大学院出身の井筒桃子を中心的担い手として進めている。今年度も、山形県内の絵はがき収集家・笠原登氏より借用した戦前絵はがき(約15,000点)のデジタルデータ化およびWeb公開の作業を中心に進めた。公開している資料に関しては、本報告書・附編1-6の「アーカイブス画像貸出先一覧」のとおり、今年度も学外から多数の利用申請があった。

⑤ その他の若手活用

高島町日向洞窟遺跡群での考古学調査(発掘)への協力、小国町小玉川地区で開催された熊祭り、ワラビ野焼き等の地域行事への参加など、上記①~④に含まれない若手(学生など)活用もおこなった。

以上の①~⑤の各種調査や作業には今年度もPD・RAほか、学内外の学部生・院生の積極的・継続的参加を得ており、本研究の一連の活動が人材育成や学生教育などにおいて持続的効果をもたらしていると言っており、また、今年度は「東文研アーカイブス」の一つ、「近現代の絵はがき・写真」において公開している資料の利用申請が昨年度より増加した。もう一つのアーカイブス「空から見た東北」の資料に関しても利用申請が数件あり、今年度は、本研究で収集した資料の認知を広めることができたのと同時に、その利活用も促進することができた。

3 来年度の取り組み予定

以上のように、地域資源活用研究では、環境史研究や地域比較研究とも部分的に連動しながら、調査活動を実施しブックレットなどのかたちとして具体的な成果発信をすることができた。本プロジェクト最終年度にあたる来年度は、以下の通り、ブックレット作成に関しては、既に着手したフィールドでの調査をまとめる。アーカイブスの資料収集に関しては継続的収集をおこなうと同時に、公開に向け整理作業を加速化させたい。

① ブックレット「〈東北一万年のフィールドワーク〉」シリーズの作成・刊行

八戸市南郷区島守地区、山形県鶴岡市大鳥地区、西置賜郡白鷹町深山・荻野地区の調査・研究を継続し、最終的にその成果をまとめたブックレットを刊行する。

② ブックレット「〈むらの記憶〉」シリーズの作成・刊行

新たなフィールドの発掘はおこなわず、報告会や追加調査など既刊のブックレットを核としたアフターフォローを充実させる。

③ 集落の景観および分布に関する空中写真の収集・撮影

これまでの撮影調査で得た資料の整理とWebサイトへのアップロード作業をおこなう。また復興事業の進展に伴い急速な景観の変化が起こっていると考えられる三陸沿岸部を対象とした撮影フライトも実施する。

④ 地域資源のデジタルアーカイブ化と活用

来年度も笠原登氏より借用している絵はがきのデジタルデータ化と Web 公開の作業を順次進めてゆく。

⑤ その他の若手活用

今年度同様、考古学調査（発掘）や地域行事などへの、学生や PD、RA 等の積極的な参加を促してゆきたい。